

動物管理学科

ドッグトレーニングコース

授業科目	動物関係学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	ドッグトレーニング	1 年次（前期）	必須	講義	2単位
担当教員	畠山 博文、下仲 佑依				
実務経験歴	【畠山】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士。犬のしつけ・アジリティ教室を開催経験がある。 【下仲】ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。				
授業目的	犬のしつけの重要性と必要性を理解し、学習理論を用いて飼い主に対し、しつけの説明ができるトレーナーを目指す。				
達成目標	学習理論を理解し、実技学の実習の中で実際にしつけを用いて犬の行動を増減させる。用いているしつけの内容説明ができるようになる。				
授業時間外に必要な学修	人とのコミュニケーションをとる				
テキスト	犬のしつけ学（基礎と応用）/エデュワードプレス				
参考書					
成績評価(割合)	定期試験（100%）				
授業内容とスケジュール					
1回	ケネルクラブとスタンダード				
2回	犬種の用途やルーツによる分け				
3回	第1 グループ①				
4回	第1 グループ②				
5回	第1 グループ③				
6回	第2 グループ①				
7回	第2 グループ②				
8回	第2 グループ③				
9回	第3 グループ①				
10回	第3 グループ②				
11回	第3 グループ③				
12回	第4 グループ、第5 グループ①				
13回	第5 グループ②				
14回	第5 グループ③				
15回	定期試験・総評・まとめ				
備 考					

授業科目	犬学・犬種標準学Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	ドッグトレーニング グ	1 年次（後期）	必須	講義	2単位
担当教員	畠山 博文、下仲 佑依				
実務経験歴	【畠山】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士。犬のしつけ・アジリティ教室を開催経験がある。 【下仲】ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。				
授業目的	犬と関わる職業に就くために、犬種とスタンダードを理解することが重要である。その為、参考書を用いて、犬種とスタンダードを確認しつつ、知識を身に付けていく。				
達成目標	犬種とスタンダードを理解し、個々の犬種の特徴を説明できるようになる。				
授業時間外に必要な学修	さまざまな犬種とスタンダードが集まる「ドッグショー」の視察				
テキスト	最新犬種図鑑（写真で見る犬種とスタンダード）/エデュワードプレス				
参考書					
成績評価(割合)	定期試験（100%）				
授業内容とスケジュール					
1回	第6 グループ①				
2回	第6 グループ②				
3回	第7 グループ①				
4回	第7 グループ②				
5回	第8 グループ①				
6回	第8 グループ②				
7回	第8 グループ③				
8回	第9 グループ①				
9回	第9 グループ②				
10回	第9 グループ③				
11回	第10グループ①				
12回	第10グループ②				
13回	第10グループ③				
14回	ドッグショーについて				
15回	定期試験・総評・まとめ				
備 考					

授業科目	犬学・犬種標準学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	ドッグトレーニング グ	2年次（通年）	必須	講義	2単位
担当教員	下仲 佑依				
実務経験歴	ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。				
授業目的	犬の体に関する基礎知識を身に付ける。また、犬の基本行動・心理を理解する。 子犬の生態管理やパピーケアスタッフとして活躍できるように知識を身に付ける。				
達成目標	犬の体について理解をする。犬の基本行動・心理・子犬の生態管理を理解し説明ができる。				
授業時間外に必要な学修	日常の飼育管理の中で身体的特徴を理解し、行動・心理などを見て観察する。				
テキスト	最新犬種図鑑（写真で見る犬種とスタンダード）/エデュワードプレス				
参考書	パピーケアスタッフBOOK/エデュワードプレス				
成績評価(割合)	定期試験（100%）				
授業内容とスケジュール					
1回	犬の体に関する基礎知識①				
2回	犬の行動と心理①				
3回	犬の行動と心理②				
4回	犬の行動と心理③				
5回	子犬のしつけ編①				
6回	子犬のしつけ編②				
7回	子犬のしつけ編③				
8回	子犬の問題行動①				
9回	子犬の問題行動②				
10回	子犬のアドバイス①				
11回	子犬のアドバイス②				
12回	パピークラスの目的・概要				
13回	しつけ教室の実演①				
14回	しつけ教室の実演②				
15回	定期試験・総評・まとめ				
備 考					

授業科目	生命倫理・福祉学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物管理学科 ドッグトレーニングコース	1年次（前期）	必修	講義	2単位
担当教員	樋口 菜津子				
実務経験歴	動物病院にて動物看護師として従事。愛玩動物看護師資格を有する。				
授業目的	動物を取り扱う業務に携わる上で必要な動物の疾患や栄養学、繁殖などのついで知識を修得する。				
達成目標	トリマーや販売士としてサロンやペットショップに従事する者として、責任を持ち動物を適切に扱うことのできる知識の修得を目標とする。				
授業時間外に必要な学修	家庭犬や学校飼育犬の日頃の管理をとおして犬の健康管理や施設の衛生管理に務める。				
テキスト	めざせ早期発見！わかる犬の病気/インターズー				
参考書	トリム/インターズー				
成績評価(割合)	記述試験（100%）にて優・良・可・不可にて評価				
授業内容とスケジュール					
1回	全身チェック				
2回	体調チェック				
3回	人獣共通感染症				
4回	病気の予防(ワクチンについて)				
5回	皮膚の作り				
6回	皮膚の病気				
7回	皮膚の病気2				
8回	耳の作り				
9回	耳の病気				
10回	耳の病気2				
11回	目の作り				
12回	目の病気				
13回	目の病気2				
14回	期末試験対策				
15回	期末試験・総評・まとめ				
備 考					

授業科目	獣医・繁殖学Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物管理学科 ドッグトレーニングコース	1 年次（後期）	必修	講義	2単位
担当教員	樋口 菜津子				
実務経験歴	動物病院にて動物看護師として従事。愛玩動物看護師資格を有する。				
授業目的	動物の病気についての知識を付け、お預かりの体調チェック、お預かり後の体調チェックに役だてる。				
達成目標	動物の病気に関して知識を付けると共に、お預かりする際に自身で判断できる能力を身につける。				
授業時間外に必要な学修					
テキスト	めざせ早期発見！わかる犬の病気/著書:小沼守/インターズー				
参考書	ビジュアルで学ぶ動物看護学				
成績評価(割合)	定期試験結果及びレポート、出席、授業態度等により総合的に評価する。				
授業内容とスケジュール					
1回	鼻と口のつくり				
2回	鼻と口の病気				
3回	鼻と口の病気2				
4回	泌尿器、生殖器のつくり				
5回	お尻、お腹まわりの病気1				
6回	お尻、お腹まわりの病気2				
7回	足先、膝、腰まわりのつくり				
8回	足先、膝、腰まわりの病気				
9回	足先、膝、腰まわりの病気2				
10回	犬種によってかかりやすい病気1				
11回	犬種によってかかりやすい病気2				
12回	子犬、子猫の体調管理				
13回	子犬、子猫がかかりやすい病気				
14回	期末試験対策				
15回	期末試験・総評・まとめ				
備 考					

授業科目	獣医衛生・繁殖学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物管理学科 ドッグトレーニングコース	2年次（前期）	必修	講義	2単位
担当教員	樋口 菜津子				
実務経験歴	動物病院にて動物看護師として従事。愛玩動物看護師資格を有する。				
授業目的	動物を取り扱う業務に携わる上で必要な動物の疾患や栄養学、繁殖などのついで知識を修得する。				
達成目標	トリマーや販売士としてサロンやペットショップに従事する者として、責任を持ち動物を適切に扱うことのできる知識の修得を目標とする。				
授業時間外に必要な学修	家庭犬や学校飼育犬の日頃の管理をととして犬の健康管理や施設の衛生管理に務める。				
テキスト	めざせ早期発見！わかる犬の病気/インターズー				
参考書	トリム/インターズー				
成績評価(割合)	記述試験（100%）にて優・良・可・不可にて評価				
授業内容とスケジュール					
1回	学外研修				
2回	学外研修				
3回	学外研修				
4回	学外研修				
5回	学外研修				
6回	学外研修				
7回	学外研修				
8回	学外研修				
9回	栄養学				
10回	栄養学				
11回	皮膚と被毛の知識				
12回	皮膚と被毛の知識				
13回	ケア商品について				
14回	ケア商品について				
15回	定期試験・振り返り・総評				
備 考					

授業科目	動物管理学演習				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	ドッグトレーニング	1 年次（前期）	必須	実技/講義	12単位
担当教員	畠山 博文、下仲 佑依、平本 理恵、中井 真己				
実務経験歴	【畠山】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士。犬のしつけ・アジリティ教室を開催経験がある。 【下仲】ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。 【平本】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士、日本警察犬公認訓練士。訓練所を運営し、現役の訓練士が授業講師として指導を行う。 【中井】訓練士資格を有し、5年以上訓練所にての経験を有する				
授業目的	犬のしつけトレーニングの必要性をと重要性を知り、犬とのコミュニケーションやコントロール性能を高める為の技術を身に付ける。				
達成目標	動物の行動理論と学習理論を基本に科学的なドッグトレーニングを行うことができる人材を育成する。				
授業時間外に必要な学修	普段の飼育管理の中で犬の行動について考える。また、正しい行動を犬が行った際の報酬の配分のついて考える。				
テキスト	犬のしつけ学（基礎と応用）/エデュワードプレス				
参考書	ドッグトレーニングブック/エデュワードプレス				
成績評価(割合)	定期試験（100%）				
授業内容とスケジュール					
1回～15回	「訓練士」「トレーナー」としての目的・概要・仕事・役割				
16回～32回	しつけ、トレーニングの必要性・重要性				
33回～47回	訓練道具・用具の説明				
48回～61回	基本トレーニング①〈犬とのコミュニケーション〉				
62回～72回	犬との暮らし方学について				
73回～83回	犬のトレーニング学について				
84回～94回	実技における必要なコマンド①				
95回～105回	実技における必要なコマンド②				
106回～116回	トレーニングの2つの手法				
117回～127回	犬の行動を引き出す3つの方法〈実習〉①				
128回～139回	犬の行動を引き出す3つの方法〈実習〉②				
140回～152回	犬の行動を引き出す3つの方法〈実習〉③				
153回～164回	犬の行動を引き出す3つの方法〈実習〉④				
165～179回	前期まとめ実習				
180回	前期定期試験・総評・まとめ				
備 考					

授業科目	ドッグトレーニング技術学Ⅰ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	ドッグトレーニング	1 年次（後期）	必須	実技/講義	12単位
担当教員	畠山 博文、下仲 佑依、平本 理恵、中井 真己				
実務経験歴	【畠山】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士。犬のしつけ・アジリティ教室を開催経験がある。 【下仲】ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。 【平本】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士、日本警察犬公認訓練士。訓練所を運営し、現役の訓練士が授業講師として指導を行う。 【中井】訓練士資格を有し、5年以上訓練所にての経験を有する				
授業目的	行動の形成のプランを立て、服従訓練科目について学び技術を身に付ける				
達成目標	動物の行動理論と学習理論を基本に科学的なドッグトレーニングを行うことができる人材を育成する。				
授業時間外に必要な学修	普段の飼育管理の中で犬の行動を考え、成功を重ねるトレーニング方法を確立する。				
テキスト	犬のしつけ学（基礎と応用）/エデュワードプレス				
参考書	ドッグトレーニングブック/エデュワードプレス				
成績評価(割合)	定期試験（100%）				
授業内容とスケジュール					
1回～15回	基本トレーニング②〈トレーニングの手法を使って行動の強化と安定〉				
16回～32回	行動の形成①（プランを立てる）				
33回～47回	行動の形成②（プランを実施）				
48回～61回	服従訓練科目の定義、実習①				
62回～72回	服従訓練科目の定義、実習②				
73回～83回	服従訓練科目の定義、実習③				
84回～94回	服従訓練科目の定義、実習④				
95回～105回	服従訓練科目の定義、実習⑤				
106回～116回	服従訓練科目の定義、実習⑥				
117回～127回	服従訓練科目の定義、実習⑦				
128回～139回	服従訓練科目の定義を組み合わせ実践①				
140回～152回	服従訓練科目の定義を組み合わせ実践②				
153回～164回	服従訓練科目の定義を組み合わせ実践③				
165～179回	後期まとめ実習				
180回	後期定期試験・総評・まとめ				
備 考					

授業科目	ドッグトレーニング技術学Ⅱ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	ドッグトレーニング	2 年次（前期）	必須	実技/講義	10単位
担当教員	畠山 博文、下仲 佑依、平本 理恵、中井 真己				
実務経験歴	【畠山】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士。犬のしつけ・アジリティ教室を開催経験がある。 【下仲】ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。 【平本】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士、日本警察犬公認訓練士。訓練所を運営し、現役の訓練士が授業講師として指導を行う。 【中井】訓練士資格を有し、5年以上訓練所にての経験を有する				
授業目的	犬が人間社会で暮らしていく為に必要な訓練技術の習得				
達成目標	犬のコントロールが出来る様になる事				
授業時間外に必要な学修	信頼される為の人間性及びコミュニケーション能力				
テキスト	犬のしつけ学（基礎と応用）/エデュワードプレス 今日から始めるアジリティ/エデュワードプレス				
参考書	JKC訓練教本				
成績評価(割合)	定期試験（100%）				
授業内容とスケジュール					
1回～10回	日本警察犬訓練士補の概論				
11回～20回	日本警察犬競技会の概論				
21回～30回	日本警察犬服従第 1 科目実習（G1）〈基本訓練～停座～停座からの待て〉				
31回～40回	日本警察犬服従第 1 科目実習（G1）〈同上～脚側停座～停座及び招呼〉				
41回～50回	日本警察犬服従第 1 科目実習（G1）〈同上～対面停座～立止～立止からの待てと旋回〉				
51回～60回	日本警察犬服従第 1 科目実習（G1）〈同上～紐付脚側行進～紐無脚側行進～休止〉				
61回～70回	日本警察犬服従第 1 科目実習（G1）①〈通し訓練〉				
71回～80回	ドッグスポーツアジリティの基礎知識①				
81回～90回	アジリティ障害への意識付け①				
91回～101回	アジリティ障害への意識付け②				
102回～113回	アジリティ障害への意識付け③				
114回～125回	アジリティ障害への意識付け④				
126回～137回	アジリティ基本のシーケンスの実習①				
138回～149回	アジリティ基本のシーケンスの実習②				
150回	前期定期試験・総評・まとめ				
備 考					

授業科目	ドッグトレーニング技術学Ⅲ				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	ドッグトレーニング	2 年次（後期）	必須	実技/講義	11単位
担当教員	畠山 博文、下仲 佑依、平本 理恵、中井 真己				
実務経験歴	【畠山】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士。犬のしつけ・アジリティー教室を開催経験がある。 【下仲】ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。 【平本】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士、日本警察犬公認訓練士。訓練所を運営し、現役の訓練士が授業講師として指導を行う。 【中井】訓練士資格を有し、5年以上訓練所にての経験を有する				
授業目的	ドッグトレーナーのプロとしての経験				
達成目標	警察犬訓練競技会及びJKC家庭犬訓練競技会等への出場				
授業時間外に必要な学修	信頼される為の人間性及びコミュニケーション能力				
テキスト	犬のしつけ学（基礎と応用）/エデュワードプレス 今日から始めるアジリティー/エデュワードプレス				
参考書	JKC訓練教本				
成績評価（割合）	定期試験（100％）				
授業内容とスケジュール					
1回～15回	日本警察犬服従第2科目（G2）〈基本訓練～脚側行進中停座～停座からの待て、招呼〉				
16回～32回	日本警察犬服従第2科目（G2）〈基本訓練～脚側行進中伏臥～伏臥からの待て、招呼〉				
33回～47回	日本警察犬服従第2科目（G2）〈基本訓練～脚側行進中立止～立止からの待て〉				
48回～61回	日本警察犬服従第2科目（G2）〈ダンベル保持・提出～物品持来、障害飛越〉				
62回～72回	日本警察犬服従第1科目（G1）②、日本警察犬服従第2科目（G2）〈通し訓練〉				
73回～83回	アジリティーの基本知識②				
84回～94回	アジリティー基本のシーケンスの実習③				
95回～105回	アジリティー基本のシーケンスの実習④				
106回～116回	アジリティーコースの実習①				
117回～127回	アジリティーコースの実習②				
128回～139回	アジリティーコースの実習③				
140回～152回	日本警察犬訓練士補の資格試験に向けて通し稽古、アジリティー競技会に向けて通し練習①				
153回～164回	日本警察犬訓練士補の資格試験に向けて通し稽古、アジリティー競技会に向けて通し練習②				
165～179回	日本警察犬訓練士補の資格試験に向けて通し稽古、アジリティー競技会に向けて通し練習②				
180回	後期定期試験・総評・まとめ				
備 考					

授業科目	動物管理学				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	ドッグトレーニング	1 年次（前期）	必須	講義	2単位
担当教員	畠山 博文、下仲 佑依				
実務経験歴	【畠山】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士。犬のしつけ・アジリティ教室を開催経験がある。 【下仲】ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。				
授業目的	犬のしつけの重要性と必要性を理解し、学習理論を用いて飼い主に対し、しつけの説明ができるトレーナーを目指す。				
達成目標	学習理論を理解し、実技学の実習の中で実際にしつけを用いて犬の行動を増減させる。用いているしつけの内容説明ができるようになる。				
授業時間外に必要な学修	人とのコミュニケーションをとる				
テキスト	犬のしつけ学（基礎と応用）/エデュワードプレス				
参考書					
成績評価(割合)	定期試験（100%）				
授業内容とスケジュール					
1回	しつけ学という学問				
2回	犬のしつけとトレーニングの必要性重要性				
3回	トレーニングについて				
4回	犬の起源と変化				
5回	犬の役割について				
6回	犬のコミュニケーションと学習				
7回	成長過程での学習の大切さ①				
8回	成長過程での学習の大切さ②				
9回	しつけに必要な理論				
10回	犬の言葉（ボディランゲージ）				
11回	カーミング・シグナル				
12回	犬のコミュニケーションと学習				
13回	ゲージに入って休むことの大切さ				
14回	いかにして犬のリーダーになるか				
15回	定期試験・総評・まとめ				
備 考					

授業科目	ドッグトレーニング理論				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	ドッグトレーニング	1 年次（後期）	必須	講義	2単位
担当教員	畠山 博文、下仲 佑依				
実務経験歴	【畠山】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士。犬のしつけ・アジリティ教室を開催経験がある。 【下仲】ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。				
授業目的	犬のしつけの重要性と必要性を理解し、学習理論を用いて飼い主に対し、しつけの説明ができるトレーナーを目指す。				
達成目標	学習理論を理解し、実技学の実習の中で実際にしつけを用いて犬の行動を増減させる。用いているしつけの内容説明ができるようになる。				
授業時間外に必要な学修	人とのコミュニケーションをとる				
テキスト	犬のしつけ学（基礎と応用）/エデュワードプレス				
参考書					
成績評価(割合)	定期試験（100%）				
授業内容とスケジュール					
1回	犬の学習と効果				
2回	正の強化と効果				
3回	一次性強化子・二次性強化子				
4回	嫌悪刺激について				
5回	基本的な指針				
6回	犬の行動を引き出す				
7回	犬という動物を見直す				
8回	咬みつく犬				
9回	犬との暮らし				
10回	犬の問題行動対処法				
11回	人とのコミュニケーションスキル				
12回	犬のしつけトレーニングの基礎				
13回	子犬のしつけ方教室を開きましょう				
14回	ケアと管理				
15回	定期試験・総評・まとめ				
備 考					

授業科目	総合研究				
	対象学科	開講時期	必修・選択	授業形態	単位数
	動物管理学科 ドッグトレーニングコース	2 年次（通年）	必修	講義	1 単位
担当教員	畠山 博文、下仲 佑依				
実務経験歴	【畠山】一般社団法人ジャパンケネルクラブ公認訓練士。犬のしつけ・アジリティ教室を開催経験がある。 【下仲】ドッグトレーニングアドバイザーとして家庭犬のしつけに携わってきた経験を持つ。				
授業目的	ドッグトレーニングコースの授業で学んだトレーニングの理念に基づき、更なる研究テーマに沿って論文などを作成する。				
達成目標	各自、研究テーマを決定し、調査や実践な研究を行いトレーナーとしての判断力や実践能力を身につける。				
授業時間外に必要な学修	ドッグトレーナーとして心身共に健康であり、また、常に向上心を持ち続けることができるよう意識を高めることが必要。				
テキスト	各教科で使用したテキスト				
参考書					
成績評価(割合)	制作した論文など（100%）にて優・良・可・不可にて評価				
授業内容とスケジュール					
1回	研究テーマ検討				
2回	研究テーマ検討・テーマ決定				
3回	テーマに沿って研究				
4回	テーマに沿って研究				
5回	テーマに沿って研究				
6回	テーマに沿って研究				
7回	テーマに沿って研究・論文作成				
8回	テーマに沿って研究・論文作成				
9回	テーマに沿って研究・論文作成				
10回	テーマに沿って研究・論文作成				
11回	テーマに沿って研究・論文作成				
12回	テーマに沿って研究・論文作成				
13回	テーマに沿って研究・論文作成				
14回	テーマに沿って研究・論文作成				
15回	まとめ・総評				
備 考					